

# 広報 きたばらき

KITAIBARAKI City Information

北茨城市市制施行70周年特別号

Kitaibaraki City 70th Anniversary

誰もが住みたい 安らぎと活力にあふれるまち 北茨城

すべての人が輝き、幸せを実感できるまちを目指して



1956 ~ 2026

# ごあいさつ

北茨城市は、本年3月31日をもって市制施行70周年という大きな節目を迎えました。この記念すべき年を、市民の皆様と共に迎えられましたことに、心より感謝を申し上げます。

この10年を振り返りますと、東日本大震災からの復興を着実に進める中、少子高齢化や人口減少の進行に加え、新型コロナウイルス感染症の拡大という、誰も経験したことのない困難に直面してまいりました。コロナ禍では、外出や交流が制限される中、市民生活や地域経済が大きな影響を受けましたが、人と人とのつながりの大切さや、地域が支え合う力の重要性を改めて認識する機会ともなりました。

一方で、この10年は、複合防災・学校給食センターや元気ステーションの整備を通じ、防災・福祉体制の充実に取り組むとともに、ゼロカーボンシティ宣言を行い、その実現に向けて、高北清掃センターの整備や自治体新電力会社の設立準備を進めてまいりました。さらには、十石堀の世界かんがい施設遺産への登録や、フランス・バルビゾン市との友好都市協定の締結、加えて昨年には、「常陸大津の御船祭」がユネスコ無形文化遺産に登録されるなど、北茨城市の魅力と可能性が内外に示された時期でもありました。

私は、様々な困難を乗り越え、誇りある成果を重ねてきたこの北茨城市の70年を、単なる通過点ではなく、次の10年、そして100周年へとつなぐ礎とし、今後も「誰もが住みたい 安らぎと活力にあふれるまち 北茨城」の実現に向け、全力で市政運営に取り組んでまいりますので、引き続き皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。



北茨城市長  
豊田 稔



市制施行70周年にあたり、市議会を代表して心よりお祝い申し上げます。  
北茨城市は昭和31年3月に県下15番目の市として産声を上げました。その後、市勢発展の原動力であった石炭産業が斜陽化し、深刻な人口の流出に見舞われましたが、工業用地造成など産業基盤を整備し、発展への礎を築いて参りました。

平成23年に発生した東日本大震災では、甚大な被害に見舞われましたが、市執行部をはじめ、多くの皆様のご尽力により、震災からの復興にいち早く取り組まれ、生活基盤の整備が進められました。

近年は、市民病院や消防署、高北清掃センターなど、長年の懸案事項に着手し、市民生活を支えるインフラが立派に整備されたことは喜ばしい限りであります。

市議会といたしましても、市制70周年の節目にあたり、安心・安全で魅力あるまちづくりを推進するため、市民の皆様のご意見やご要望を十分にお聞きしながら、議員一人ひとりが知恵を出し合い、市政に反映できるよう全力で取り組んでいくとともに市政の調査研究や政策への提言、国への要望活動などを積極的に取り組み、議会としての役割と責任をしっかりと果たしていきたいと考えております。

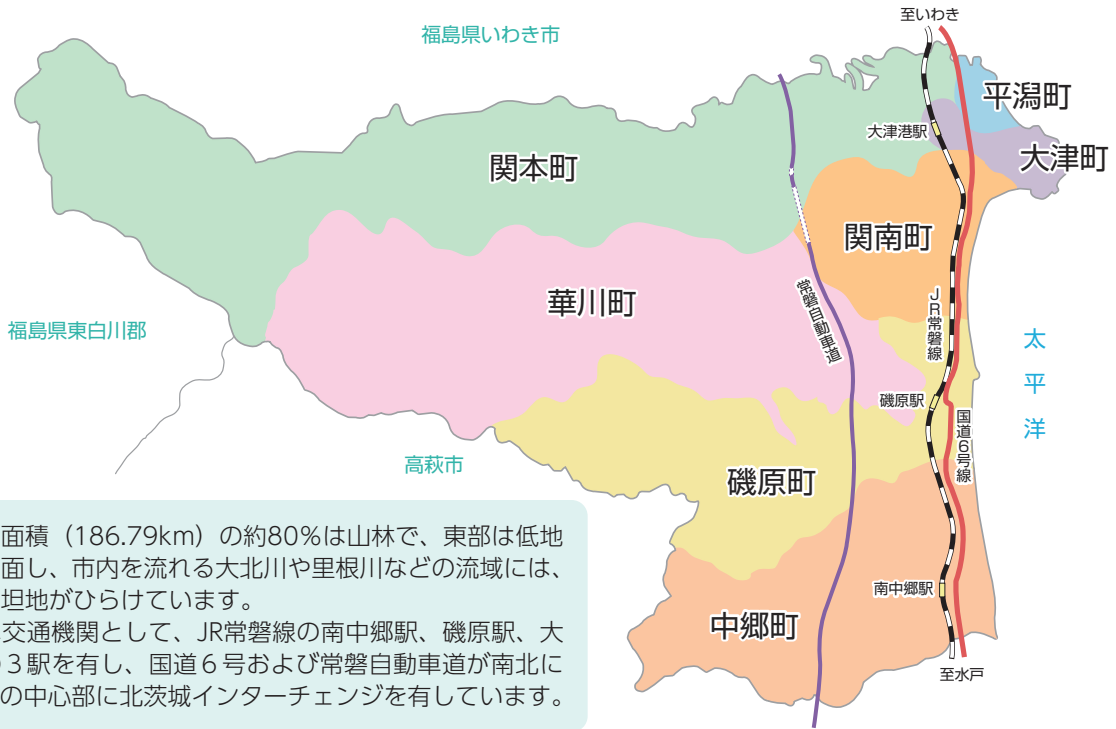
結びに、本市の限りない発展と市民の皆様のご健勝をお祈り申し上げます。ごあいさつといたします。



北茨城市議会議長  
上神谷 英典

## 北茨城市の構成図

1956（昭和31）年3月31日、磯原町、大津町、平潟町、関南村、関本村、南中郷村の6町村が合併し、県内15番目の市として北茨城市が誕生しました。



市の総面積（186.79km）の約80%は山林で、東部は低地で海岸に面し、市内を流れる大北川や里根川などの流域には、豊かな平坦地がひらけています。

主要な交通機関として、JR常磐線の南中郷駅、磯原駅、大津港駅の3駅を有し、国道6号および常磐自動車道が南北に走り、市の中心部に北茨城インターチェンジを有しています。



### 市章

「北茨城市」の「北」の字を分解し、それを互に噛み合せ市民の固い団結と市の飛躍発展を表現しています。



#### 市の鳥【かもめ】

市の海岸に全般的に見られ、海岸や河川で魚を追う群れをなしてすむ水鳥です。漁業者からは漁を知らせる鳥として重宝がられ、嵐に立ち向かって行く鳥としても知られています。



#### 市の木【松】

古来より陸前浜街道の松並木として多くの人から愛され、すぐれた先人が育った市の誇る風光明媚の中心は松でした。また、松は縁起のよいものとして親しまれています。



#### 市の花【シャクナゲ】

ツツジ科の常緑の灌木で、花園のシャクナゲ群落地は県の天然記念物に指定されています。花は観賞用として広く親しまれており、人の心に「あこがれ」「清楚」を感じさせます。



#### 市の魚【アンコウ】

市は大津・平潟の漁港を有し、アンコウの水揚げ港として全国的にも知られています。本市の観光と水産業の振興および市民が魚についてより親しみを深めるため市の魚を制定しました。

# 北茨城市70年のあゆみ

1956 (昭和31年)  
 ↓  
 1965 (昭和40年)

昭和31年	市制施行 (3町3村合併) 市長選挙執行 初代市長に片寄富七氏就任
昭和32年	市制施行後初の 市議会議員選挙実施 当時は6選挙区 (華川以外) 定員36人 大津町の御船祭17年ぶりに開催 磯原町本町に市役所庁舎完成
昭和33年	ごみ処理清掃車購入により収集開始 磯原地区商工会を結成 水沼へき地診療所が完成
昭和34年	市立病院が完成
昭和35年	中郷町有線放送電話が開通 大津岬灯台が完成 国道6号舗装化が二ツ島まで完了 二ツ島公園が整備され ブロンズ像を建立 北茨城市商工会を結成
昭和36年	市消防団改組により19分団に統合
昭和37年	華川、磯原、関南、関本 有線放送開始
昭和38年	関本町小川地区が電化される 常磐線上野—平間が電化開通 茨城大学五浦研究所内に 天心記念館が完成
昭和39年	上水道事業起工 市長選挙執行 豊田實氏就任 関本町平袖地区が電化される
昭和40年	華川浄水場が完成 磯原工業団地第1期造成工事着手



昭和32年当時の北茨城市庁舎



炭鉱内部で掘削作業に従事する作業員



炭鉱全盛期の常磐炭鉱神ノ山社宅



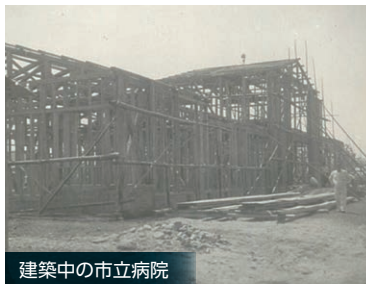
17年ぶりに開催された御船祭



昭和30年代の大津漁港



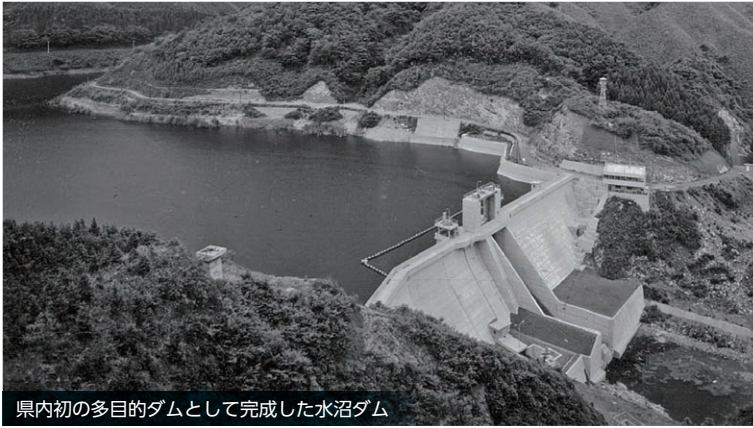
昭和40年頃の平潟漁港



建築中の市立病院



華川中学校運動会



県内初の多目的ダムとして完成した水沼ダム



建築中の水沼小中学校



水沼小中学校統合式



関本炭鉱貯炭場



平瀧港魚市場



磯原中学校で市制施行15周年記念式典が開催



昭和45年当時の消防庁舎

# 1966 (昭和41年)

## 1975 (昭和50年)

昭和41年	中郷、磯原、華川、関南、大津、関本の農協が合併
	上水道給水開始
	水沼ダム完成
昭和42年	磯原工業団地 第2、3期造成工事着手
	大日本炭鉱閉山
昭和43年	北茨城市民歌の発表会を開催
	北茨城市消防本部発足
	水沼小中学校が開校 (花園・オ丸小中学校統合)
	自動電話(ダイヤル式電話)が開通
昭和44年	NHK北茨城市テレビ放送局 高帽山に開局
	北茨城郵便局が発足 (磯原、中郷が統合)
	関本炭鉱、重内炭鉱閉山
昭和45年	消防庁舎完成
昭和46年	常磐炭鉱中郷鉱、神ノ山鉱閉山
	市制施行15周年記念式典挙行
昭和47年	磯原B工業団地造成工事着手
	晴々荘、偕山荘が 老人憩いの家として開所
	茜平青少年の家開所
	磯原住宅団地起工式
昭和48年	JR磯原駅前通りで月1回の 歩行者天国開始
	市公害防止条例制定
昭和49年	御船祭が13年ぶりに開催
	中郷地区簡易水道給水開始
	第29回国民体育大会茨城大会 市内でウエイトリフティング競技 が開催
	磯原B工業団地第2期造成工事着手
昭和50年	北茨城市総合計画基本構想策定
	市長選挙執行 柴田章氏就任

# 1976 (昭和51年)

## 1985 (昭和60年)

昭和51年	市制施行20周年記念式典挙行 第27回全国植樹祭にあわせて、 茜平青少年の家に 昭和天皇、皇后両陛下ご来市 第1回市民まつり開催
昭和52年	大津の盆船流しが 市文化財第1号に指定 台風11号が本市を襲う
昭和53年	市民体育館、市民プール、 サッカー・ラグビー場が完成 JR磯原駅西土地区画整理事業に着手 休日、祝日の当番医制度開始
昭和54年	大津の盆船流しが県文化財に指定 清掃センター操業開始 巡回文庫（移動図書館）開始
昭和55年	歴史民俗資料館完成 長野県中野市と姉妹都市提携
昭和56年	二ツ島立体交差完成 市制施行25周年記念式典挙行 市民憲章、市の木・花・鳥を制定 市民号第10回記念として 中野市訪問
昭和57年	給食センター、中郷浄水場完成
昭和58年	心身障害者福祉センター完成 華川分水場と湯の網配水場完成 環境センター完成
昭和59年	保健センター完成 15年ぶりに人口5万人を突破 芸術鑑賞号始まる
昭和60年	B&G海洋センタープール完成 「科学万博つくば'85」で 北茨城市の日開催 中郷工業団地が分譲開始



市制施行20周年事業として、市民体育館・市民プール、市民野球場、サッカー・ラグビー場が建設され、祝典が開催



市民野球場



市民プール



昭和55年に完成した歴史民俗資料館前に、市制施行25周年記念事業として野口雨情像が建立された



「科学万博つくば'85」260人の市民が参加



特急ひたちがJR磯原駅、JR大津港駅各駅に停車（昭和60年）



台風10号による大雨により田畑や河川、道路に大きな被害が出た



多くの関係者が開通を祝った



JR磯原駅舎内に開設された市民サービスセンター



完成した旧市立図書館



ランドセルを受け取る児童



多くの来場者で賑わう「第1回雨情の里港まつり」

# 1986 (昭和61年)

## 1995 (平成7年)

昭和61年	台風10号の大雨で2千世帯が浸水 市長選挙執行 松崎龍夫氏就任
昭和62年	市制施行30周年記念式典挙行 県立北茨城養護学校開校 新市庁舎完成 JR 3 駅内に 市民サービスセンター窓口を開設
昭和63年	常磐自動車道 日立北—いわき中央間開通 第1回磯原節全国大会開催
平成元年	第1回雨情の里童謡の集い開催 市立図書館開館 老人福祉センター「ライト」完成 新大北橋、八八橋で 市道高萩磯原線が開通 第1回雨情の里港まつり開催 市民ふれあいセンター完成
平成2年	大津漁村センター「ポートオオツ」完成 市長選挙執行 豊田稔氏就任
平成3年	小学校入学を迎える子どもたちに ランドセルの配布が始まる
平成4年	名誉市民胸像除幕式挙行 歴史民俗資料館入館者100万人突破 JR磯原駅東まちなみ整備事業完成 (からくり時計・公園)
平成5年	雨情の里スポーツ広場完成 平潟港温泉通湯開始 五浦海岸六角堂周辺の 浸食対策人工崖完成
平成6年	雨情没後50年祭開催 ガラス工房「シリカ」オープン
平成7年	阪神淡路大震災被災地へ 市職員派遣 童謡の森ふれあいパーク完成 市長選挙執行 村田省吾氏就任 十石トンネル開通

# 1996 (平成8年)

## 2005 (平成17年)

平成8年	泉沢霊園完成 平潟小学校新校舎完成 市制施行40周年記念式典挙行
平成9年	JR常磐線 磯原橋上駅・自由通路竣工 県天心記念五浦美術館開館
平成10年	五浦岬公園完成 市営斎場「やすらぎ聖苑」完成
平成11年	中郷温泉「通りゃんせ」オープン ニュージーランド国ワイロア地区 と国際親善友好都市提携
平成12年	公共の宿「マウントあかね」 オープン
平成13年	水沼小中学校閉校 防災コミュニティセンター完成
平成14年	平潟漁港の不発弾処理で 193世帯が避難 花園地域交流センター 「花園もーる」オープン 市内巡回バス運行開始 茨城高校総体開催 (ロードレース)
平成15年	ごみ処理有料化スタート
平成16年	農山漁村交流促進特区認定 (農家民宿、どぶろく製造) 明德小学校新校舎完成 常陸宮同妃両殿下ご来市
平成17年	市道里親制度スタート (3団体調印) 地震・津波に備え、 市内24カ所に半鐘設置 公共下水道供用開始



完成したJR磯原駅



開館した県天心記念五浦美術館とテープカットの様子



中郷温泉「通りゃんせ」



マウントあかね



国際親善友好都市提携を祝ってイベントが開催



平成15年当時の市内巡回バス



市長から被害の説明を受けられる両陛下

提供：茨城県



市内沿岸部に大きな爪あとを残した〈大津港〉

提供：茨城県



津波に襲われた住宅地〈平潟港〉



震災後初のイベントとなった「きたいばらき元気市」



市民病院



五浦岬公園 展望慰霊塔



市民病院附属家庭医療センター



あんちゃん ごうちゃん

# 2006 (平成18年)

# 2015 (平成27年)

平成18年	市制施行50周年記念式典挙行
平成19年	市漁業歴史資料館「よう・そろー」オープン 市長選挙執行 豊田稔氏就任
平成20年	「第1回市民夏まつり」JR磯原駅周辺で開催 消防団女性分団誕生 石岡第一発電所が国指定重要文化財に登録
平成21年	市役所本庁の日曜開庁開始
平成22年	第1回石岡さくら祭り開催
平成23年	東日本大震災発生(マグニチュード9.0 震度6弱) 天皇、皇后両陛下ご来市 震災被害のご視察と避難者を見舞われる きたいばらき元気市開催(サッカー・ラグビー場) JR磯原駅西に放射能対策プラザ開設
平成24年	五浦六角堂が茨城大学により再建される 震災記録写真集「明日を信じて 元気！北茨城」を発行
平成25年	防災行政無線(51カ所)設置完了 市のイメージキャラクター(あんちゃん、ごうちゃん)が決定
平成26年	五浦岬公園展望慰霊塔完成 平潟、大津、中郷の災害公営住宅入居開始 大津漁港内に非破壊放射能検査施設が完成 第1回全国あんこうサミット開催 市民病院開院
平成27年	市民病院附属家庭医療センター完成 市制施行60周年記念プレミアム商品券販売

2016 (平成28年)

2020 (令和2年)

平成28年	市消防本部、消防署が 新庁舎に移転
	市制施行60周年記念式典挙 行
	関本第一小学校、富士ヶ丘小 学校閉校
	関本小中学校開校
	新市立図書館開館
平成29年	関南小学校新校舎完成
	常陸大津の御船祭が 国指定重要無形文化財に指 定
	市コミュニティケア総合セン ター「元気ステーション」開 所
	県道北部幹線道路（県道里 根神岡上線バイパス）が全 線開通
平成30年	磯原子育て支援住宅入居開 始
	市生涯学習センター本館 「とれふる」（旧関本第一小 学校）、分館「期待場」（旧 富士ヶ丘小学校）開設
	磯原地区公園テニスコート 完成
	二ツ島高台公園完成
平成31年	歴史民俗資料館・野口雨情 記念館リニューアルオープン
令和元年	中郷町の「十石堀」が 世界かんがい施設遺産に登 録
	第74回国民体育大会 （いきいき茨城ゆめ国体2019） ソフトテニス競技会開催
	磯原地区公園 多目的屋内スポーツ施設（筑 波銀行『あゆみ』ドーム）オ ープン
令和2年	新型コロナウイルス感染症 緊急事態宣言
	各種証明書の コンビニ交付サービス開始



高台に移転した新消防庁舎



市立図書館の開館を祝う関係者



ラッピングバス



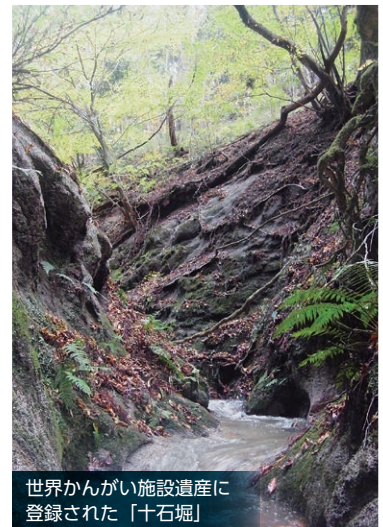
中郷石岡さくら祭り



市コミュニティケア総合センター「元気ステーション」



磯原地区公園多目的屋内スポーツ施設（筑波銀行『あゆみ』ドーム）



世界かんがい施設遺産に登録された「十石堀」



第74回国民体育大会（いきいき茨城ゆめ国体2019）ソフトテニス競技会



東京2020オリンピック・パラリンピックの聖火リレー用トーチが展示



磯原中学校新校舎



複合防災・学校給食センター



「十石堀」沼田主計顕彰碑完成記念式典



高北清掃センター



バルビゾン市と国際親善友好都市協定締結



しゃぼん玉公園

2021 (令和3年)	
)	
2024 (令和6年)	
令和3年	華川中学校が閉校、磯原中学校に統合 磯原中学校新校舎、複合防災・学校給食センター供用開始 華川浄水場供用開始
令和4年	都市計画道路（北町・浜田線）が全線開通 「十石堀」沼田主計顕彰碑完成
令和5年	磯原中央公園に「野口雨情顕彰碑」、ウォーキングロードに道標「雨情小径」設置 北茨城市と高萩市で組織する「高北清掃センター」でごみの受入開始 常陸大津の御船祭新祭事船竣工式 市華川スポーツパークオープン 台風13号の影響により線状降水帯が発生し、市内各地に大きな被害をもたらす
令和6年	能登半島地震被災地へ市職員派遣 市立小・中学校に2学期制を導入 旧磯原中学校の跡地に「しゃぼん玉公園」開園 フランス国バルビゾン市と国際親善友好都市協定締結



台風13号の大雨により市内各地で大きな被害を受けた

# 2025 (令和7年)



【市制施行70周年記念ロゴマーク】  
地域おこし協力隊 徳本 萌子氏制作

令和7年	子育て支援住宅「トリシア磯原」入居開始
	友好都市記念「バルビゾン訪問事業」で市民20人の訪問団を派遣
	市制施行70周年記念特別公演 第1部 銅像「赤い靴」像除幕式・童謡コンサート 第2部 杉良太郎さん、伍代夏子さん、船越英一郎さんによる公演
	常陸大津の御船祭が ユネスコ無形文化遺産登録



バルビゾン訪問事業



童謡コンサート



銅像「赤い靴」像除幕式



「北茨城市とちびゴジラの逆襲」大漁旗



インドのニューデリーで開かれた政府間委員会での審議を経てユネスコ無形文化遺産に登録された

2026 (令和8年)

## ～ 変化する時代に挑み、 北茨城市の未来を切り拓く～

本市のこれまでの70年の歩みは、先人たちのたゆまぬ努力と、市民の皆さん一人ひとりの力によって築き上げられてきたものです。これからも、これまでの歩みに学ぶとともに、北茨城市の未来を見据えたまちづくりを進めていきます。

### 子育てしやすい まちづくり

「子育て一番北茨城」をスローガンに、市立保育所の開所および病児保育の実施、こども家庭センターによる包括的な相談支援体制の強化など、安心して子どもを産み育てられる環境の整備を進めていきます。

### 支え合い安心して暮らせる 地域づくり

地域福祉の拠点となる「地域福祉交流センター」を整備し、平常時には市民が交流する場として、災害時には災害ボランティアセンターとして活用するなど、地域で支え合うまちづくりを進めます。

### 持続可能なまちづくり (脱炭素の取組)

森林整備や再生可能エネルギーの活用など、脱炭素社会の実現に向けた取組を進めるとともに、自治体新電力会社の設立など、地域の資源を生かしたエネルギーの地産地消を推進し、持続可能なまちづくりを進めます。

### 新たな活力を生み出す まちづくり

デジタル化社会の進展を見据え、データセンターの誘致など新たな産業基盤の形成を進めるとともに、観光や地域資源の魅力発信などを通じて、地域経済の活性化と交流人口の拡大を目指します。

本市は、市制施行70周年という大きな節目を迎え、これまで先人たちが築き上げてきた歴史と歩みを礎に、新たな時代へと歩みを進めていく重要な局面に立っています。人口減少や物価高騰など社会環境が大きく変化する中ではありますが、将来世代への責任を常に意識し、市民の皆さんとともに考え、ともに行動しながら、北茨城市の未来を切り拓いていく決意ですので、ご理解とご協力をお願いいたします。

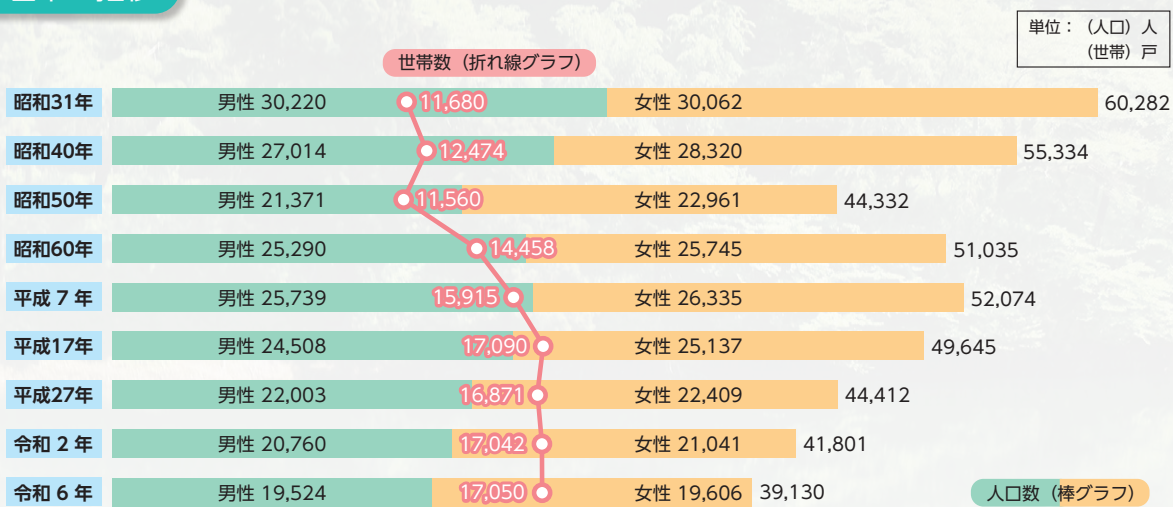
## 北茨城市民憲章

(昭和56年6月13日制定)

仰げば阿武隈の山なみに、望めば黒潮の躍動に教えられ鍛えられ、  
先人の遺産を受けつぎ私たちは手をとり合って  
平和で活力にみちたまちづくりのため この憲章を定めます

- 1 からだをきたえ 健康で働き 豊かなまちをつくりましょう
- 1 自然を愛し 明るく美しいまちをつくりましょう
- 1 思いやりと感謝の心で 住みよいまちをつくりましょう
- 1 教養を深め 文化の香り高いまちをつくりましょう
- 1 伝統をふまえ 未来にはばたく若い力が育つまちをつくりましょう

### 人口と世帯の推移





北茨城市

---

発行／北茨城市 編集／まちづくり協働課  
【2026年4月6日発行】

〒319-1592 北茨城市磯原町磯原1630番地 TEL.0293-43-1111  
ホームページ <https://www.city.kitaibaraki.lg.jp>

---